

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400559		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム 花・花		
所在地	大分県日田市日ノ出町156番地		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年12月12日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地の良さと職員体制の充実性を活かし、日々の食事作りにもなう買いもの、調理、家事全般、外出行事から個別支援まで、ご利用者の思いに沿った支援が出来る環境にあります。職員は認知症という病気を「我が身のこと」と捉え、利用者と真摯に向き合い、意思決定支援と尊厳保持を念頭に、ご家族の思いに寄りそい、安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。日田グループホーム協議会を発足して12年、空床情報の共有による入居待機者への情報提供、市の認知症プロジェクト会議・認知症啓発活動(劇団)にも参加しています。大分県の希望大使でもある認知症当事者が同僚として勤め、本人の声から学ぶこと、地域啓発の取り組み、障害者として働くことの合理的配慮など、共生社会としての学びも実践しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の発信する「言葉」や「行動」「つづやき」を丁寧に聞き取って検討し、家族や馴染みの人も協働しながら、食事や外出の楽しみ、居室の設え・日々の個別支援に活かしている。
- ・勤務年数の長い職員が多く在籍し、利用者との馴染みの関係や、排泄・終末期支援など羞恥心や不安を伴う支援に大きな役割を果たしている。
- ・行動や人との交流制限・閉じこもる事の弊害と、緩和によるリスクを理解し、地域密着型グループホーム本来の利用者支援が行われている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・家族との連携、尊厳維持の理念のもと、混乱を招かない環境・心豊かに暮らせる環境づくりに努め、社会の一員として暮らせるように、地域交流の機会に努めている。	理念に沿って、家族や入居前の馴染みの人・店舗との関係の継続が実践されており、居室や共用スペースで安心して過ごせる場や環境づくりが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策により家族以外の交流の機会はない。一方で、退居者ご家族(美容師)が散髪ボランティアに、退居者ご家族からお手紙を頂く、介護相談を受けるなど、なじみの関係ができています。	自治会に入会しており、運営推進会議の地域委員として、3地区の民生委員と5地域の自治委員が参加している。認知症や介護の専門職として、介護保険制度や認知症の個別相談も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人支援のもとオレンジカフェの開催を継続中。職員の自主的な参加もあり、地域住民や当事者・家族支援を続けている。管理者がピアサポーター補助相談員・認知症啓発の劇団に組み込み、行政と協力のもと啓発活動を継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動や入退居、職員研修等の報告をしている。会議録を職員に回覧し、運営・実践につなげている。	今年度から対面での運営推進会議を開催し、利用者の状況や事業所運営について報告している。利用者支援の個別課題について話し、各委員から得られた意見や助言を支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市の認知症施策会議に参加しており、GHの現状(新規申込者から聞く在宅介護の厳しい現状など)などを共有し、日田市における認知症施策について検討している。	管理者が主体となって、認知症の人や家族の立場、課題について現場の声を伝え、地域の同業者との情報共有やオレンジカフェ開催に係わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で研修会を実施し拘束することのデメリットと、安全確保に向けた取り組み(環境づくり)の重要性を認識している。玄関の施錠は、ご家族の希望から安全確保を優先し手動開放としているが、外出の希望に応じられる環境である。	利用者の不安や混乱など、日常生活の中で起こる困難について、利用者の話を聞き、行動の理由を探ることから始め、本人の目線で一つひとつに解決策を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の勉強会において学び、虐待(不適切なケア)について深く考え自己を振り返りながら、日々のケアに取り組んでいる。管理者は職員のストレスに留意し働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には弁護士・司法書士・行政書士などに相談しアドバイスをもらっている。後見制度の研修にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には一項目ずつ説明し、ご理解いただいているか確認しながら契約している。料金改定等については、文書にて説明・同意のうえ実施。家族の経済的負担を考慮し、特養等への入所希望等必要に応じて情報提供を実施。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「人質に取られている」というご家族の言葉を常に意識し、適時連絡、面会時には日頃のご様子を伝えるとともに、ご家族の意向を確認するよう努めている。頂いた意見は職員間で共有し、実践に活かしている。	コロナ禍により、家族との交流制限が生じた中で、利用者の状況や様子をラインや写真・動画などを利用して、より多く情報提供を行っている。居室での面会も再開され、面会時に意見や提案を聞く機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、介護の現場は流動的であることを自覚し、職員が働きやすい環境にあるかどうか心を配り、風通しの良い職場づくりに努めている。課題があれば、上司に報告・情報を共有し、課題改善に取り組んでいる。	毎月職員会議が開かれ、利用者支援や運営について話し合われている。利用者支援をはじめ、勤務体制や働き方についての意見や提案を、管理者に伝えやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	加算取得による給与向上、休暇を取りやすい環境や有休以外の報奨金付の休暇など、働きやすい環境づくりに力を入れている。資格手当や勤務手当の向上にも積極的に取り組み、モチベーション向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、施設内外研修への参加を積極的に促し職員もその期待に応えられるよう努力している。法人全体の研修会を計画的に実施、各専門委員会を中心に知識・技術の向上に全職員が取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「日田GH協議会」の定例会のみ実施。合同研修会や懇親会は実施出来ていないが、空床情報を共有し待機者が長く待たずに入所できる仕組みや、困難事例の共有など、知識・技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、疲弊しているご家族を思慮しつつ、ご本人が安心して入居できるように、体験利用・日帰り利用など、それぞれの状況に応じて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや本人の様子をかながみ、入居時の迎えや施設での暮らし方、医療機関の選定、家族の協力体制について協議し、ご家族・ご本人双方が安心して暮らすことを目標に、懇切丁寧に関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて専門医や多職種(包括、施設相談員、SW)との協議を実施、ご本人やご家族が納得のいく支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「支える側が支えられている」ことを理解しており「サービス利用者」という色眼鏡で捉えず「かけがえのない1人の人」として敬い、ホームで暮らす余生を一緒に楽しめる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居までの家族関係を考察し、家族が思う本人像と、ホームで暮らす本人のどちらもその人であることを念頭に、周辺症状の理解に時間をかけて家族を支援し、家族と本人の新たな家族関係を構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に個別でドライブするなど暮らしの継続に努めている。入居前からのご友人と手紙のやりとりや面会の支援、個人持ち携帯電話での通話支援など実施している。	5名の利用者が携帯電話を所持して、家族などとの会話を楽しんでいる。毎日馴染みのスーパーに買い物に行くなどの、利用者の入居前の生活行動を継続したり、パーマを掛けるなどの外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GHは職員を含めた小さな社会。できる人ができることを、できないことは無理にさせないことが職員にも入居者にも定着している。そのうえで、喜びも悲しみも分かち合い、互いを思い遣る暮らしの場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で併設の特養に住み替えをしたのちも、声を掛け合い、互いの様子を思いやっている。必要に応じて、情報提供も行い、ご本人への理解が深まるよう努めている。退居したご家族から別件での相談や、ご紹介を頂くことも多々ある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ないつぶやきをひろい共有し、思いの把握に努めている。個別支援では、日ごろ見ることのない表情や言動があり、思いの把握に有効な機会。意思表示が難しい方の表情や仕草から思いを寄せるように努めている。	前回の目標達成計画として取り組まれている。利用者の何気ない発言や発語を、「つぶやき・願い事」として記録し、共有されている。「フッフ」という発語の背景にある思いや希望を化粧に繋げるなど、利用者の視点に立った思いの把握が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話を聞いたり、友人・親族からお話をうかがうなど、これまでの生活の様子をうかがい知り、大切にしていたことや馴染みのもの・場所、趣味など続けられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や健康状態の記録と情報の共有に努め、気になったことなどこまめに話し合うようにしている。自由とリスクは背中合わせであることを理解しつつ、ご家族の理解・協力を得ながら本人らしさを尊重した暮らしに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期(3ヶ月~6ヶ月に一度)または状況に応じて柔軟にカンファレンスを行い「本人にとってどうなのか」を追求し、その人らしく暮らすためにどうすればよいか、職員の価値観のすり合わせに努めている。内容によってはご本人も参加している。	利用者のアセスメントから得られた情報や、「つぶやき・願い事」から汲み取った思いを組み入れた介護計画作成に努めている。具体的支援内容は、詳細に明記されており、日常の生活支援の場でも検討や話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉や客観的事実を記録するように努めている。予測できるリスク・気づきは職員間で共有し、申し送りや当日スタッフで検討・緊急カンファレンスを開催するなど、状況に応じたベストな方法を検討・支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアサービスの概念を払拭し、その人の暮らしに目を向け、豊かな心持ちで過ごせるようにするために必要なこと・モノなど、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域へ出向くことは出来ていない。この時期唯一の資源は家族・友人であり、その関係性の継続に努め手紙や手芸作品の郵送など、丁寧にかかわるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご本人の意向を確認し、アセスメントをしたうえで、適切な医療機関を選定、ご家族にご理解頂いている。ご家族が遠方の場合などをかんがみ、職員の過重負担にならないことにも配慮している。	在宅診療医を掛かりつけ医とする利用者が多く、月2回の訪問診療を受けている。専門医受診は、職員対応で行われている。複数名の看護師も在籍しており、健康管理や日常的な医療支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「いつもと違う」などの、観察力の重要性を意識し、異変時には看護師や管理者に報告・相談し、協力医や担当医の指示を仰ぐ体制をとっている。看取り期には訪問看護師・医師と密に連携をとり、職員・ご家族・ご本人をサポートしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院で対応できるものは可能な限り通院し、入院した際はリロケーションダメージを最低限に抑えられるように、早めの退院をお願いするなど、医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	持病の悪化や、心身状態の変化に応じて、今後の予測を立て、ご家族の意向を確認している。特に遠方のご家族には、医療機関や住み替えについても助言し、終末期に向かう環境の見直し、心の備えも行っている。	重度化・医療的ケアの必要性や家族の希望で、特別養護老人ホームや老人保健施設の住み替え支援や、事業所での終末期・看取り支援が行われている。在籍年数の長い職員も多く、職員の経験が、事業所での穏やかな看取り支援に活かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時の対応法の習得や、報告・連絡・相談できる環境づくりに努めている。その時々の入居者の状態に応じて、事例検討しながら対処法について研修・確認を進めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(昼間出火・夜間出火想定)の火災避難訓練)、非常呼集を実施している。災害時は、地域の自治会長にも連絡をするなど、協力体制は取れている。災害時の食品等は備蓄している。	年3回、火災想定での避難実働訓練を行っている。事業所2階は、母体老人福祉施設と繋がっており、母体からの応援や避難も可能となっている。災害時の地域の避難所としての役割も果たしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーは誰もが持つあたり前のことと認識している。利用者に限らず職員間でも互いの意見や思いを尊重するよう心がけ、相手を傷つけないこと、誰もが自信と自尊心を持って暮らせるように配慮している。	個人のプライバシー保護を、利用者の意見を尊重した設えや備品の整備に繋げている。一人で過ごす時間や自身の思いを表出する場として、自室で過ごす時間を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら行えることを取り上げずに見守ることを基本とし、二者択一にするなど、決定しやすい環境づくりに配慮。ご本人の意思確認・意思決定を優先するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごしやすい環境づくりや、個々の意向や季節に応じた外出(ドライブ)や、散歩、など、積極的に支援している。認知症の症状に応じ、動静の過ごし方を見極め、安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみや化粧、一緒にお好みの服を選ぶなど支援している。化粧道具など、補充を行い本人の希望に沿った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事が基本で、調理・片づけなど作業を入居者と一緒に行っている。パーベキューや、外注(デリバリー)も活用、また個々の嗜好等に応じた食事(好物やパン食、ソフト食)の提供をしている。	基本の献立は、1カ月単位で母体法人の管理栄養士が立案している。食材の買い出しや、その時に食べたい物や嗜好を大切にしたい献立の変更も行われ、食事が楽しみや気持ちの表出の機会となっている。利用者の咀嚼や嚥下に合わせた加工も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の一日の総摂取量を観察・記録し、過不足・排泄について随時検討。水分補給用のゼリー・栄養補助食品・食事形態の工夫、好物の提供、個別の食器や食のタイミングなど、その方にあった食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は認識しており、口腔チェックシートを活用し毎月口腔内・ケアの確認を行っている。出来るところまで自分でしていただいたり、その方にあったケアの方法を検討・実施、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	苦痛なく排泄出来るように、排泄パターンの把握・コントロールに努め、必要に応じてパット等を使用。安眠確保のためのオムツ使用や、排泄用品の使用によるダメージ、布パンツで失敗することのダメージ等、双方を理解し支援している。	トイレでの排泄支援に努めている。入浴時の下着の汚染をきっかけに、ベテラン職員のさり気ない衛生品の紹介や、スムーズにリハビリパンツの利用に繋げるなど、利用者の意思や尊厳を大切に支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクル把握の重要性を認識しており、必要に応じて緩下剤・便秘薬等の調整を実施している。水分・食事摂取量・運動量にも留意し、個々に応じた良好な排便状態を意識したケアを実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて毎日入浴・隔日入浴を支援。排泄の失敗時にシャワー浴を行うなど時間に捉われず柔軟に対応。個々の皮膚状態に合わせてボディソープやシャンプーを選定、気持ちよく入浴できるように支援している。	平日の午後、隔日の入浴を基本としている。ほとんどの利用者が浴槽に浸かり、重介護の利用者は、足浴をしながらシャワー浴での入浴支援を受けている。皮膚の乾燥対策として、入浴後の保湿ケアも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や身体状況に合わせて居室やホールソファで休むなど、それぞれのペースで生活している。消灯は入居者の様子に合わせて、テレビ視聴やおやつ提供、寝付けない方への支援など、ご本人のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護・介護関係なく処方薬のセットを実施、誰が何を飲んでいるか、効用・副作用はなにか、効果的なタイミングなど、効用・副作用、回数の把握に努めている。個々の嚥下状態や認知症による理解困難など、個別に応じた内服支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や園芸・手芸など、それぞれが役割を持って暮らせるように努めている。施設という窮屈な暮らしによるストレスも職員は理解しており、外気浴や散歩など、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出はドライブのみとなっている。個別で外出の際は本人とゆっくり話ができる機会でもあり、そこで知った内容は職員間で共有できるように記録に残している。	散歩や食材の買い出しなど、日常的に外気を楽しむ支援が行われている。利用者の希望先へのドライブや外食、複数の利用者での季節の花や景色を楽しむ外出支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の希望で自己管理できる支援体制をとっている。管理が必要な方でも自由に使えるよう配慮、外出時など金銭を手渡し、支払いの支援をするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持や施設固定電話による通話、SNSを利用した動画通話を支援している。手紙やはがきなど、個々の希望に合わせた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・匂い・湿度や温度など、目に見えない環境整備にも留意している。収納するものと装飾品を区別し、生活感を出しながらも雑然とした雰囲気にならないよう気をつけている。季節や天気がかかるよう窓やカーテンの開閉にも配慮している。	共用空間の壁面には、事業所行事や外出先での写真が飾られ、利用者と職員との会話やコミュニケーションツールの一つになっている。共用スペースでは、職員と共に食材の準備をしたり、ベランダのプランターに植えられた野菜の成長を楽しむなど、思い思いに過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室やリビングなどで、それぞれが思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。天気の良い日は入居者同士で日向ぼっこをしながらおしゃべりするなど、和やかに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の身体状況やこれまでの暮らし方に合わせた環境づくりに配慮している。一日の過ごし方に合わせた備品(冷蔵庫やテレビ、椅子等)をご家族と話し合いながら設置している。	安全面の配慮や、利用者の意見を尊重した居室づくりに努めている。利用者の不安や混乱に結び付く物や環境について検討し、家族の写真やプレゼントも活用した、一人で落ち着いて過ごせる居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の動線とリスクを意識し、動きやすい工夫(タンスを支えにして自力歩行できる配置など)をしている。共用部分では椅子の高さや足置き台を設置するなど、混乱を招くような物品は置かないなど、環境整備に留意している。		